

# 「LUNU(ルヌ)」

作・広田淳一 2009.02.03

登場人物・出演

ギーコ ……  
スランプ ……  
ナイル ……  
板垣 ……

※台本、記述上のルール

◆セリフ中で、(LUNU) カキカッロト入ってらんヌ字は発音ねない。

嘘をつくことは、社会的であることの証明だ。

## 前提

とある町のガソリンスタンド。

ガソリンを入れるための装置はどれもホコリを被っており、頻繁に使われている様子はない。店の看板には「カルタゴ・ノヴァ」と書かれている。

店名はこの町の名前「カルタゴ」に由来する。

店にはもう一つ別の看板が掲げてあり、そこにはクッキーの絵が描かれている。

看板はきれいに掃除されている。

真新しいの残る様子からそれが比較的新しいものであることがわかる。

カルタゴは小さな港町である。

町は手狭ながらも、太陽の光に満ちて明るく、近代的で新しい。

かわりに伝統に裏付けられた厳かな雰囲気や、

計画的に整備された町並みとしての美しさがここには無い。

潮風のおおい。

港には小さな漁船もあるにはあるがあまり多くはなく、商業用の中・大型の船舶が目立つ。

海水には塩分が特に多く含まれているが、

海岸のところにどこで何かの鉱物が白く結晶して堆積している。

潮風はいつでも乾いていて砂漠に吹く風のようにもある。

砂漠が大陸を侵食していつか、そのまま海にぶつかつたような土地。

町は数十年前の戦争から急速に復活を遂げたために、

ところどころ穴の開いたように廃墟を残しながら繁栄している。

「カルタゴ・ノヴァ」はその町の外れにある。

港町が内陸に入って一回はつきりと終わつた辺りに、また逆に内陸から続く砂漠の終わりに、記念碑のようにはポツンと一つの店は建っている。

## 第一幕 人違い・取立て・開戦

### ◎プロローグ

舞台上にイスが一脚置いてあり、傍らに新聞がある。

椅子には女（スランプ）が腰掛けていて、新聞を読んでいる。

と、コーヒーカップを持った男（ナイル）が登場。

飲み物を多く入れすぎたと見えて、零さないようにかなり慎重になっている。

ナイル、新聞を読んでいるスランプを見て、

ナイル 今日は何があんの？

スランプ いつも通りかな。

ナイル いつも通り「危機的」？

スランプ ん？ うん。

ナイル まだ戦争になんのかもしれないな……。

スランプ (笑) ナイルさんの話だとなんか年中戦争が始まっちゃうみたいだけど。

ナイル うん……。

少しの間。

スランプ ……じゃ、どっかに逃げちゃおうか？

ナイル ええ、どうだ？

スランプ ミナトの向こうか、サバクの向こうか……。や、あたし考えたんだけどね、

ナイル うん。

スランプ どっか誰も知らない国にいつてさ、とにかく人がうじゃうじゃいる都会の中に紛れ込んで

やって、それで誰もあたしたちを知らなくて？ そういつといつで喫茶店みたいのやったら、……良くない？

ナイル 喫茶店？

スランプ ナイルさんがおいしいコーヒーを選んであてたしが紅茶煎れてさ。そんなに大きい店じ

ゃなくてもいいの。十人も入ったらいっぱいになっちゃうよ。ちっちゃいけど、ちょっとゆったりした感じだよ。入口のところに鈴があって、ドア開けると『クロンクロン』っての。ちょっと低い音で。

『クロンクロン』よ。

ナイル 夢が広がるね。ギー「はひひすたよ」。

スランプ 夜になったら照明がラッと変えてバーにしてさ、ギー「がシェイカー振ってお酒作んのよ。

ナイル ふーん、キャンドルとかつけちゃって？

スランプ そっすっすー！ キャンドルとかつけちゃってー。そしたらナイルさんもまた堂々と研究とか出来るんじゃないかなあ、と嬉しい。

ナイル ダメダメ、そんなの……。

スランプ なんですよ？

ナイル このスタンド守るのも仕事だよ。

スランプ いつまで？

ナイル いつまでってだから、……最後まで。

スランプ、不満が残るが仕方なく黙る。ナイルを見ない。

ナイル、スランプをちらちら見て、

音響：S 飛行機の音。

ナイル、遠くを見る。

ナイル (スランプに) あれにもエレファントが乗ってんのかな？

少しの間。

ナイル ……低く飛ぶなあ。

続いて音楽。

---

## ◆字幕 一幕

---

とある町のガソリンスタンド。

看板には大きな文字で

「カルタゴ・ノヴァ」

と書かれています。

店名はこの町の名前「カルタゴ」に由来する。

カルタゴは小さな港町である。

町は数十年前の戦争から急速に復活を遂げたため、

とてつもない穴の開いたように廃墟を残しながら繁栄している。

ガソリンスタンドはその町の外れにある。

港町で、砂漠が、それぞれ遠慮し合っていて出来た空白のような場所に、

ホシノユウの店は建っています。

或る日の夕暮れ。

SE 自動車音の音場音。

◎晩方 板垣、登場

男（板垣）登場。やや疲れた様子。

板垣 あの、すみません。

無言。

板垣 すみません、あのー。

ナイル セルフだから勝手に入れといていいよー！ あ……、タダって意味じゃないからね。

板垣 あ、そっじゃなくあの……、……ギークさんのお住みは「じゃりんこ」ですか？

店の奥から、ナイルが出てくる。

顔を見合わせて無言。

板垣 あの、ギーク、ギーク・パレルモ。さあ、こちらにお住まいですかね……？

ナイル（頷いて）それから、多分、今日は遅くなるから、それ、まだロイヤ、改めてもらって。明日だったら一回家に帰ると思うから。

「と、いいながらナイルは早くも奥へ引込んでしまっている。

板垣はそれをしゅんとして、

板垣 それじゃ待たせてもいいですか？ ちょっと車が、ガス欠起こしちゃって。

ナイル ガソリンもあるから入れてあげよう。

板垣 あ、ホントですか？

ナイル だって、ガソリンスタンドだからね。うち。

板垣 ああ、ですよ……。いや、なんか表にクッキーの看板しかなかったから、と聞いて。いや、クッキー。なんかクッキーの看板があるじゃないですか、あの、

ナイルは板垣から早くも少し離れて奥へ向かい去る。

ナイル あれは副業していつか。……ま、スタンドが副業みたいなもんだけれど、

板垣 それでこんなクッキーのにおいがするのって、

ナイル そっかね。

板垣 これはなんか、ちょっと甘酸っぱい、なんですかね、木の实なんか入ったクッキーですか？

ナイル いや、わかんないよおは。

板垣 でもほらにおいが。

ナイル わかんねえんだよ。俺、鼻悪いから。

板垣 ああ……。

ナイル そんじゃ、また出直して、ね。ガソリン入れて。

板垣 や、随分遠くから来ましたんで、あの一

ナイル うん。聞いたよ、おっき。

板垣 泊まるじがないます。

ナイル おう……。あのね、あー、じがすっつ直ぐいしたら、15分もしないでモーターがあるから。ま、汚いんですけど。

板垣 じゃなすっつもの、なにかなんなすっつすかおま。

ナイル なんじか？

板垣 じが、なにか……。

ナイル あ、うちは泊めなすっつ。

板垣 いいじゃないですか。そんなだつて、モーター行ってまた出直してっていうんじゃない、なんかね……。

ナイル めへへら港も思っつはるじがなすっつ。じがすっつだよ。古代遺跡なんかもあるじ。

板垣 だつて、活いたじがなすっつ。

ナイル 別にきれいな「」だつてあるよ。港、出ちゃえはもつ何だつてあるわけだから。ホテルでもなすっつせよ。

板垣 そわはわかりますすけじが、や、泊まるじがなすっつ無じがなすっつ、じが「」を待ちたいなめ、なすっつ。

少しの間。

ナイル 会っつじがなすっつ。

板垣 え？

ナイル ていつかまあ、用件じがなすっつ。

板垣 それは関係ないじがなすっつ。

ナイル もしかしてあなたその……お金のじがなすっつ……？

板垣 そうじがなすっつなすっつ……。

ナイル ああ、ハイハイ、金の話ね……。

命点がいっつたじがなすっつ様子

板垣 うわ、なんかいやだなあ。や、や、違じがなすっつ、なすっつじがなすっつ。

ナイル 何が？

板垣 だから確かにお金の話で来たんですけど、俺はお金を借りて来たじがなすっつ全然なすっつ、むつ返すじがなすっつ。

ナイル 貸してたのあんたが？

板垣 はい。

ナイル ギーロー？ 金を？

ナイル、板垣を嘲るように笑っている。

板垣 や、そんなのあんたの知ったじつちやなごらじよ。現に俺は貸してるとは言わなごらじよ。ごらじよかめんだギーローの何なんだよ？

ナイル そいついじ聞き方をされて答える義理もなごらじよな。

板垣 ああ、そつですな。すみませんでしたな。

ナイル んじや、中、中じいぜ……。

ナイル、板垣を部屋の中に入れてみる。

---

### ◎晩方 紅茶のスヌメ

---

板垣 おおー、まんまだなあ。

ナイル ん？ なに、入ったじいぜんの。

板垣 まあまあまあ……。

板垣、言葉を濁す。

スランプ、登場。

スランプ くらっしやい。

板垣 あー、ごじも。

スランプ お答なごら？

ナイル いや。ギーローになんかあんたがっしよ。

スランプ ああ、そつ。あれ、あの、ごじいったお友達、で？

ナイル や、俺も今会ったじいぜだから。

板垣 あ、あの、すみません、板垣です。

スランプ 板垣さん。あたし、スランプです。

板垣 はい、スランプ？

スランプ あ、別に不調が続いているわけじゃない。そつじいぜ……。

板垣 あ……。

スランプ (自分を指して)スランプで、ごじちはナイルさん。

板垣 スランプさん、ナイルさん(それぞれ確かめるように)。ナイルさんでなごらじよか言わせてましたっけ、ちよつと有名な人で、あの……。

ナイル 遠くから借金の取立てなんだごらじよ。

スランプ 取り立っ？  
ナイル 金、貸してんだって、ギークに。  
スランプ ヘー？

スランプ、とても驚いた様子。むしろ信じられなくて少し笑ってさ。

板垣 なんですか。俺が借りてるってんなら話はわかるんですけど？

スランプ まあね。

ナイル お金に困っている人じゃないし。

スランプ あれ、板垣さんは、どういっ関係の？

板垣 ま何ていうか、昔の友人、ですよ。彼女が帰ってきたらちゃんと改めし話します。

スランプ (ナイルに) 今ロビィ行っただっけ？

ナイル ハービーのユウ。

スランプ あ、そっ？

ナイル また払いが遅れているとか言ってる。あとまた続へようだったけど店員がじまじまなついて。

スランプ あ、そっで何、ギークが自分で新しい店開へんか言ってるわけ？

ナイル や、それはまた別の話だけど……。

スランプ 本気なんだあの、レストランやるって話。

ナイル うん。なんだかさつみたいよ。

スランプ ふっん……。 (板垣に) あ、お茶とか飲みます？

板垣 あ、じゃあ。

スランプ お酒の方が？

板垣 イヤイヤ。コーヒーかなんかあわね。

スランプ 今、紅茶しかないんですけど……。

板垣 あ、なら全然、紅茶で。

ナイル 酒なんか出さじょうじょうつうんだよね……。

スランプ あーとね、セイロンとダーズリン、アールグレイ、どれがどうですか？ あと、オレン

ジ、ペコロス、スマリーとあ、レモン、グリン、スなにかしゃきゅうつうじょうじょう、覚醒作用あるから。

板垣 じゃあ、よくわかんないですはじめるの、レモン、グリン、ス。

スランプ クッキー召し上がります？

ナイル いいから早く持って来いよ。

スランプ なに？ どうして？

ナイル どうして？

板垣 クッキーも、じゃあ、ごちそうです。

スランプ ちょっぴり待つっていいから。

スランプ、退場。





スランプ ああ、……ハービーに？

ギーコ そう。ていつか、おかしいんだよ『今日は帰りなさい』ていつのよ？ 『今日は帰りなさい』って誰に回かって言ってるのって。あたし、なんか、笑えてきちゃって。「あんたが店を構えていらねるのは誰のおかげですか？」ってそいつのやつを、あんな程度の売り上げの店がね、なんとが持ちこたえていらねるのは全部あたしが融通してやってるからでしょ？

スランプ そっだね。うん、そっだ、と思っよ。

ナイル 今日は払ってくれたの、ハービー？

ギーコ 払えるわけないじゃん、あのバカ。

ナイル ああ、そっ。

ギーコ よっほむね、「まじやめちゃんな」みたいなの言ってるのしかと思っただけで、それもかわいそうかなと思っつい、「じゃあ、どうしようかね？」「みたいな言い方してやってるのにハービーの奴、「今日はもう帰りなさい」ていつのよ？」腹立っつてしょうがないからレッドラムにっやつて、「っつてぶきっけっやつて、っつ

スランプ ええ？

ギーコ それからあの、スキピオの連中にも、っつやつて、ぶーっい、

ナイル 大丈夫か、それ。

ギーコ 大丈夫だよ。っつて、何が？

スランプ だってスキピオの人って、軍の人間じゃないの？

ギーコ 大丈夫だよ、そんなの。そんでき、ほらハービーの店にあのニセモノの虎の皮があるじゃない？い？ あの白いやつ、あれを要らないんじゃないかっていってやつを、さ、あんなもん売るってっつから店がしょつもない、古臭い雰囲気になってんのよ。だからあれをっつやつて引剥がそうしたらやめろやめろかいて揉みあいになっつやつて、

スランプ あー、あれニセモノだったんだ？

ギーコ ニセモノだよ、そりゃ。決まってるじゃん。っつて、え？ バカじゃないのあんた。あんなえ？ ホントにっつての？」やだ、怖い、知らないって怖いね。一枚皮のホワイトタイガーなんてあんなもん売るわけないっつてっつ

スランプ あ、そっなの？

ナイル ニセモノだよ。

ギーコ 違う、だからね、ああいうものを飾っておくのはなんか全然ダメだと思っつて。だってニセモノだから。しかもね、あれが本物だったとしても、ダメ。ていつか全然っつて、スピード感がない趣味なんだよな。

スランプ そっね。スピード感はない。(笑っつて)

スランプ、タイガーを模したジエスチャー。用をたて、止まっつてる様や。

スランプ 「っつたもなね。

ギーコ だからやめたっつてっつて、っつていつか、っつて、そなたが「スタチオの皮を」っつて挿んで、バーっ、っつて投げっつてっつて、

スランプ タイガーに？

ギーコ そう。したら流石にちょっとなんか、何？ んん……みたいな顔してたから、何、何か文句あんの？ って言ってるやつ、そしたら、(笑)、何もありません、て大人しくなっちゃって。腹が立ったんなら女の一人ぐらいいびん殴るなりなんなりしてみりゃ良きやつなもんなのに、そついつニイタラクなわけよ。

スランプ ギーコにそれやるとまたちょっと大変だと思っけど……。

ギーコ ていつかあんたちよつと入い、あんた何、ちよつと、へイあんた。

板垣 あ、俺？

ギーコ 「あ、俺？」じゃないよ。あんただよ。なにあんた？ 人の家に堂々と上がりこんであたしの何、なにになにない、どちから様？

板垣 いやあ、元気だね、ほんと。全然喋るトマなかった。これようやく俺、挨拶とかしていいターンが来たんだよね？

スランプ ですね。

ギーコ 誰？

板垣 あ、板垣、板垣。わかんないか。

ギーコ、板垣に言われたことが不可解らしく、彼の顔を凝視している。

スランプ 知っている人？

ギーコ 知らないよこんな、つーか何？ あんた板垣となんか関係ある人？

板垣 関係するつか、だから、本人。

ギーコ、不満そうな態度。

ナイル 何、知らない人なのこれ？

板垣 いや、そついつとどじゃなくて。久しぶりに会うもんだからなの。

ナイル (板垣を無視してギーコに) え、知らない人？

ギーコ、縦横に首を振っていて、答えが判然としない反応。

ナイル どつちだよ……。

スランプ 板垣さんて人は、お知り合いなの？

ギーコ 板垣は知っているけど、おまえ……誰だよ。

板垣 まあ随分前だからね、一緒に暮らしてたのは。

スランプ 暮らしてた？

板垣 まあ、はい。

ギーコ っつて、え？ ちよちよちよ、待って本人？ 本人てことを言っただよおむんっ？

板垣 そついつ。

ギーコ え、じゃあ聞きませうけど、は？ ぜんぜん顔が違ひたはずじゃ？

板垣 うん……。そうなんだよ。見間違えるのは、そりゃそうだと思うんだけどね。

ギーコ あんたが板垣だつてんなら、まだしもナイルのほつが似てるよ。(ナイルを見て) あ全然似てる。

ナイル らしいんだけどさ……。どう？ オジナルから見？

板垣 ああ……。ああ。顔はちょっと似てるかもしんない。でも骨格が全然……。

ナイル あ、そう？(笑)

板垣 違うんだあの俺さ、整形したから。思いつきで。

ギーコ セイケイ？

板垣 うん。整形手術して。ホラだつて、身長は同じくらいじゃ？ 骨格的にはまんまだからチヤウ見て。前は、もうちょっと肉ついてたかもしんならやう。

ギーコ あ、あの、あの、

板垣 全体の雰囲気と同じホラ、顔にこだわらなごら。

ギーコ こだわるとしよ。え、バカなの？ 全然、顔、こだわりますけど。しつつか似て無ければいい。なんだよいくらなんでも。

ナイル、少し笑っている。板垣の方へ歩み寄り、

ナイル そしたらあんた帰ったらどうした、せつ？

板垣 じゃあじゃあ

ナイル じゃあじゃあ(じゃあへいわ)。

ギーコ ていつか何回も整形する必要があるの、そんな原型わかんなくなるとは……。地雷の処理はさせていらっじゃいますか？

板垣 あ、そんなやつなもんだね。

ギーコ は？

板垣 顔の半分くらいをあの、一回無くなるとかから俺は。

スランプ 半分くらい……。？

板垣 ひつじに怪我して……。だからそれを治すためには結構な時間と、結構な手術が必要になったわけだよ。そのしつ事情がなかったらせつちやうキーコの尻にも帰って来たかったんだ。ちや……。？

ギーコ ちやう、なに？ 無理なただけで、それキヤクがじゃあなつてしつじや……。無理メン。？

ギーコは暗へ混りこんだ様子。

スランプ それじゃ何か、証拠みたいのはないんですか？ 顔がまあセイケイ？ しちゃってたとしてもなんか証拠があわね、ね……。？

板垣 そりゃありますよ。俺だって一応、これは理解しがたい状況だろうな。ってのはわかっていますかね……。

板垣、カバンからメモを取り出して何やら文字を書き始め。  
書き終わってそのメモをギーコに渡す。

板垣 はい。

ギーコ、それを受け取る。スランプがそれを横から覗いて見へ、

スランプ 何これ。サイン？

板垣 そっそっ。筆跡とか、骨格とか、そっそっものは変わってないわけだから。

引き続きいへ、板垣は何かを素早くメモにうつらして。

スランプ (ギーコに) ねぇ、ちょっといい？ もし彼がその板垣って人だったら、それはギーコの何になるわけ？

ギーコ それはまあ、

板垣 兄妹とかではないですよ、だから。そっそっ、ね。

スランプ ああ……。

ギーコ で何、それで、今更何か用でも？ っていうかそっそっ、用件は？

ナイル お金を返して欲しいってことだよ。

板垣 黙っててくれたらいいよ。

ギーコ お金？

ナイル そっそっ、いいよ。

板垣 貸してあげてよ、一応。ま、預けているっていつか……。別に俺だって返してもらったらきのギーコの生活を邪魔しようってわけじゃないから……。……。

ギーコ 返すってそんな……。……本人かどうかもわからない人に？

板垣 あー、ほらー！ ！ここ大事だよ、ちょっと、ナイルさんもスランプさんも聞いて欲しいんだけどさ、この人だって板垣本人にだったら返す気はあるわけだよ。ね？ 本人にだったら返さなきゃいけない何かがあるわけだよ。ね？

ギーコ、認めざるを得ない、とこっ様子どうなっつていこ。

スランプ ホントなんだ……。

板垣 ひとまず俺が本人かどうかは置いておくとして、ギーコ・パレルモという人間が板垣ジュシユコという人間に金を借っている、しかもそれは事実だから。でしょ？ ほら、ここにちゃんと証文だってあるからいられ。

板垣が証文をカバンから取り出す。  
ナイルとスランプはそれを見よつと覗き込む。

ナイル どれどれ。

板垣 いやいや、渡さないよ。大事な書類だからそんな。ビリーとかされたらなあ。

スランプ ええ（不満）

板垣 借したお金返してください、ってのは、これそんなにおかしなと言っていないでしょ、ね？

ギーコ、否定しながら「はい、肯定するものがない無言」。

板垣 ああ、あれも渡してあげますよ。はい。

スランプ 何？

板垣、ギーコ「F1用のびんご日記帳を渡す」。

そしてすべし自分はまだ新しくメモ帳何かを書き始める。

ギーコ、日記帳を開くしみる。

ギーコ なに、日記？

板垣 みたいなもの。結構、分量あるからまじまじと見とくしよ。それとまあ、こんな情報が役に立つかわかんないけど……。

板垣、今、書いたばかりのメモを渡す。

ギーコ、それを見て絶句する。

驚いた表情は見せないが、スランプから見えないように「紙を隠す」。

ギーコ これ、板垣があんたに教えたの？

板垣 本人だから。

ギーコ 全然、記念日とか気にする人じゃ無かったのに……。

板垣 そういふごぶりをしなかっただけで、忘れてたわけじゃないでしょ？ 節目節目は。

ギーコ なんかもつそれすっぴんカツラからやめてへんなんか……。

板垣 何が？

ギーコ 板垣のフリをすんのをさー！ っていうかさ、誰なのあんた？

板垣 だから……あれ？ なんだらう、……あれ？

板垣、少し歩き出しつつ……。

板垣 さっきからななやかたをこいて、結局、金を返すしもらはなごうじや……。

ギーコ お金が欲しいなら別にお金あげようよ、やるよ、やる。だからその、そういう嘘をつくのほ  
ぼとやめい。

板垣 やるよと言っているけど、むしろあげるのは俺だからね？ 全体的に今の君の持っているものな  
らべて全部俺の金で買ったみたいなんだから、返すっていうかね……。ま、別に今の君の生活自  
体をどうしようもないから全然、一定の額は残してもらって構わないんだけど……。  
ギーコ そんな黙ってらんないよ。マジで。

板垣、同じ説明を繰り返さなければいけないことに疲れた、とこの様子。  
間。

ナイル ……板垣さんがあの、顔の半分くらい失うような怪我を実際にしたと聞いてね、

板垣 はい。

ナイル 仮にそのたしゅまゆ、元々の顔と全然違う顔に作り変えるっていうのは、なんかおかしくなると  
すか？

板垣 そうですか？

ナイル 普通は元通りにするんじゃないかなあ、と思っただけでっ。

板垣 それじゃ俺がちよっと普通じゃないのかもわかんないんだけど……。え、ナイルさんは生まれ  
変わってもまたその顔がいいですか？

ナイル え？

板垣 そんなに自分の顔気に入ってます？ その顔でっ。

ナイル 不便でしょ、っていうたの。これで通って来てんだから。っていうかあんたもそういう派手  
な嘘はやめたほうがいいよ。みっともないから。

板垣 いや嘘はつこうとしないで、みっともないかどうかはちよっとわかんないとすまじけ……。

ナイル 腹立ちな。

板垣 や、その、ちゃんとした医者だね、自分の顔に戻すのはよしたほうがいいって言われたとす  
まよ。

ナイル へー。どうして。

板垣 じじいがか言われたとすまよ。

ナイル 元に戻せるんだったらそのほうがいいに決まってるだろ？ っていうか俺も軍にいた頃にはそ  
ういう、顔を怪我した人間っていうのもちよくちよく見てきたけどもさ、治れないからね？ そんな何  
事もなかったみたいだ。っていうかね？ むしろちよっといい顔だよあんた。いい顔だ。

板垣 じゃあ、え？ じいちゃんわかんないんだけど、俺は顔が治っちゃいけないからわけ？

ナイル 技術の問題と聞いてね、そういうことは難しいんじゃないのかって聞いてたの。

板垣 え、このために俺がどれだけ苦労と金を使ったかわかってっつてんの、あんた？

ナイル 知るわけがないけどね。そんなじいば(笑)。

板垣 だったら憶測で言わないで下さいよ。ま、ま、そういう風に言ってもおぼえるのはおぼえてい、ちよっと  
嬉しいけどね。

ナイル あ？

板垣　そこまで治ったんだなっていつ証拠になるわけだから。ただね、いつか  
ナイル　なんだよ。

板垣　あのー、俺も、長いと顔中包帯巻いて暮らしてきたけど、顔なんて生活しているのみ、  
あれ、不便だよそれこそ。だって、ダメじゃん全然。社会的にはね？俺のいつかおじやがら  
正しくても「顔が無い」「いつか時分お世話しつ、いつかは吟味ねなる」も無いわけだよ。じゃ「正  
しく」ていつのは何だ？。ご顔で言ひ事なのかよ？。正しい人間のはいつでもご顔して  
か？。いい顔じゃなければ正しくいつかは言えないのかよ？。

スランプ　そんなことは言っていないと思ひますけど……。

ギーコ　なんであなたが全然違う顔にしちゃったのって聞いてないじゃ。

ナイル　それだね。

板垣　あ、それ？。それ、くだわるな？。

ギーコ　うん。くだわるね。

板垣　だったら言ひつければ、あのさ、人間の意識の中で何が一番気持ち悪いかっていったら、何かの  
ギョとえそれとは違ひ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、うっ、  
ギーコ　なに？。ギョとえそれ……。

板垣　似て非なるものっていつかき、たよえは、たよえはそつだ、フリンケンシユタインでもアラ  
キラでも、あれ人間と似てるから怖いわけだよ。ほら宇宙人とかだつてあれ、人間とかは離れてい  
る事が怖いんじゃないから？。手があつて、足があつて、目があつて、大体人間みたいな形して  
るから気持ち悪いんだよ。

スランプ　え、でもオ、あ、ちよつとごつて……。

板垣　なに？。

スランプ　え、タンとかは気持ち悪ひですよ、よ、似てないですよ。

板垣　タン？

スランプ　あの、だから、スレて出すあのタンあるじゃないですか。タンは気持ちわるいけど、全然  
人間っぽくないですよ。

板垣　なんか……ぬぬぬぬぬぬぬ感じがいキセソっぽいだよ。

スランプ　ああ……（残念）

板垣　ていつかあなたのいつてゐるじやあ、ちよつとジャンル違ひだ。

スランプ　トカゲより、トカゲ人間のほうが気持ちを悪い、っていつか言ひますよ。

板垣　うん……そ……そうだね。トカゲ人間は気持ち悪いでしょ、だつて？。

スランプ　はい。

ナイル　結局、何がしたいんだあんたは？。

板垣　だから、だから今、話してんだから俺はね、元の顔に絶対戻してねっていつか言ひますが、頼  
んだわけ最初、医者「。そりゃ絶対俺だつてそのほうがいいから」。でも医者はその言葉に「絶対  
ないっていつかはね、よ、俺も同じに譲わねえと思ひてるから」。譲わなごつて、いや、絶対元  
の形に戻してねって頼んだわけ。そしたらもつとごそのいせロからのほうがいいですよ、いつか言  
わつたよ。多分治ったあともね、元の顔のタミューンお88点ぶらごつかなんかわけだよ。そう  
するんですよ、書いてその矢つたた20点分だけ。……ちよつと……



ビルでも、元々全然違う顔にしちゃえば、そわはそわで、新しいジャンルの顔ってのは10点だと思って思える時が来るんじゃないのかっていうのを、そういう話になって

ギー「 ははははは。もうどうもじゃあわかったよ。わかったわかった。

少しの間。

ギー「 もしもね、あなたが本物だってことがちゃんと証明できたら、今のあたしが持っているものはなんもかんも全部あげていいですから。っていうか、返しますから。だけど、あなたが本物だってことがはっきりするまでは絶対に何もしなからね。あ、嘘ってことがわかったらあなたを殺す。……そわははは。

少しの間。

板垣 証明して、何をすればいいわけ？

ギー「 わかんないけど。あたしの中ではっきりするまで。

板垣 そんな曖昧な……。

ギー「 あんただって、そんなにスイスイ行く話じゃないってことはわかってるでしょ？ 相当な金額の話なんだからや、

板垣 あんまり長引くと困るんだけど……。

ギー「 じゃあ、帰りますわー

少しの間。

ギー「 や、不愉快だからね大分、あなたの言っていることは。わかんない。

板垣 ま、借りたもん返さない人も大分不愉快だとは思っけど……。でも、納得できないうつろい気持ちはわかるしね。うん……。

板垣は段々と部屋の中で自分のくつろいでいる空間「移動する。

客人のいるべき場所から、主人のいるべき場所へ。

板垣 長いこと悪かったね。

少しの間。

板垣 そんな一言で済ませようしないじゃないかなのはわかっているけど、一応……。しめだね。

ギー「 ホントにびっ殺したい。

ナイル、板垣に歩み寄りして

ナイル (ギーコに) ユウウウウ…なんだっただらカァ！何と通じようかよ！  
スランプ やめてっつ、そうっつのは。

ナイル ロで言っていたっけ帰らなごよ、1つ1つはあつ。  
スランプ やめてっつ、そうっつのは絶対、やめし。

ナイル そりゃ俺だって暴力はイヤだけじゃ、

スランプ やめてっつ、負けるから。

ナイル え……？

スランプ 負けるぞしよ。カズくとカ無理じゃん、ホントは。

板垣 ……そうっつ言っ方は、傷しよ。

スランプ だってあたしナイルさんがカズくへっかいつて実際勝ったし見た時ないからな？

ナイル んなごたアないだろ、

スランプ いや、あるから全然。とにかくやめて。怪我もするし。恥かしくから。

ナイル 完璧負け前提じゃねえか……。わかったケーサジ呼ばっせしたら。そんならスランプも反対  
じゃないだろ？

スランプ ええ……。 (そんな一大事にしてっつのかしら？ とっつ意味で板垣を見る)

板垣 まあ、どーぞ。そうしたいんなら……。

ナイル ほんじゃ、スランプちょっつ……。

スランプ、警察に連絡をしよっつジャン。

ギーコ やめてやめてやめて。ケーサジとか大嫌いだからマジやめて。

ナイル そんなに言っただっつ……。

ギーコ やめてっつ呼ばなごよ。

板垣 呼ぶの？ 呼ばないの？

ギーコ 呼ばないっついでっつてんじゃんだから。はっはい。呼びませと。

板垣 うん何？ そんなじゃあ、返してもらええわね？

ギーコ だから言っつてんじゃんそれも！ 金返して欲しいんだっつたら、あんたがあんただっつてんことを  
完璧に証明してみせしー！

音響：外では飛行機の音。先のシーンの途中からその音は段々大きくなっていきしよ。

ナイル、窓の外を見て、

ナイル スキピ才軍だ……。

板垣も窓の外を見て、

板垣 ああ、早いなあおっ……。

ナイル 完全に領空侵犯じゃねえか。舐めやがっつて。何をやってたんだ才軍は。

板垣 ちよっ、ちよっと俺、出てきますよ、あのガリソンだけもらってまう？  
ナイル 今？ やめとけよ外は。

板垣 これはまだ威嚇でしょ。じゃあ、勝手に入れさせてもらうから。  
ナイル やめとけってのに。おい！

板垣、退場。

ナイル 何だよ、大丈夫かあいつ？ (板垣に) おーい！ やめとけって！

ナイルもそれを追いかけて退場。

ギーコは窓の外を見る。それを見ているスランプ。  
それから、スランプも空を見て、

スランプ わあ……。

音響：飛行機の音が大きくなる。  
照明変化。

## 第二幕 買物・夢日記・国外逃亡

### ◆字幕 一幕

板垣はナイルの制止を振り切って港へ向い、そのまま帰らなかった。

この時、始まった威嚇飛行はスキピオ空軍、

『マクスウェルの悪魔』

によるものだった。

彼らは『エレファント』のみで構成された、

「撃滅不能」の特殊部隊である。

『マクスウェルの悪魔』の展開と合わせて、

陸・海軍もそれぞれカルタゴを包囲。

三方を封鎖された小都市国家カルタゴは、

強制的に戦時体制へ移行することを余儀なくされた。

時の政治学者ハルサメ・ユキムラは事件を評してこう述べた。

「これでカルタゴはピン詰めにされたネズミだ」

6日後。

朝。

### 早朝

#### ◎早朝 南国エレキテル

冒頭と同じ風景。

ただ、今回はスランプとギーゴがイスに座っている。

黙って座っている一人。ギーゴは何やら手帳のようなものを文字を書いている。

と、そこへナイル登場。新聞を持っている。

スランプ 何、どつしたの最近？

ナイル んん？ 何が？

スランプ サバクの新聞は読まないんじゃないの？

ナイル ま、大ニュースだから一応ね。

ナイルは新聞に目を落とす。

スランプはそれをじっと見ている。

スランプ 良いところあるでしょう？ サバクの新聞にも。

ナイル (失笑) ……相変わらずのオトボケに眩暈がするよ。11月6日午後2時の「11月」だよね (当該の記事の部分を指して、スランプに読ませる)

スランプ 「カルタゴ政府は過去の過ちを心から反省し、すみやかに誠意を示すべきである。そのことなくしてスキピオの怒りは到底おさまらないのである」「……。」

ナイル 何を考えたら11月11日書き方になるのかね。

スランプ どういう意味、これ？

ナイル だから武装解除要求にも大人しく応じてるってんだろ。

スランプ へー？

ナイル 出来るかってーの。

スランプ でもそれでスキピオの人たちが納得するんらさーあ……。

ナイル バカな11月11日じゃないよ。あーね、あーいすが言ってるのは11月11日だよ、まず『武器を下ろせー』『11月11日』

スランプ うん

ナイル 『武器を下ろせー』下ろしたか？ じゃあ死ぬー！『そいつ11月だから。そんな人質が虐殺された時に十分わかってんじゃないか。』

スランプ 虐殺でそんな……。

ナイル いや、虐殺しろあねは、どう考えたつ。

スランプ ま、確かにお気の毒ではあったけど……。

ナイル あの人質事件の時だってサバクの新聞はずっと人質を送ることに賛成だったわけだろ？ スキピオが安全を保証するっていつてんだから人質は大丈夫だよとか、そいつ11月11日言ってたわけ

だよ。で、実際どうなったの？ 皆殺しだよ。その結果についてサバクの新聞は何かしてくれたわけ？ 一言の謝罪もない！ それどころかマジナー市長の批判を始めたわけじゃ……

スランプ それはだから、……人質の中にエレファントが沢山混じってたって11月のもあつたんじゃないの？

ナイル だからって殺して11月11日にはなんないだろう？ エレファントだからって殺して11月11日にはならないよ。あねは、エレファントが人間の身代わりになって行ってくれたんじゃないか。なんだつ11月11日だ、それを……。

スランプ それはどうなんだけつね……。

ナイル それにあの時にはマジナー市長だつて自分の息子をちゃんと差出して、そこで殺されてしまっているんだからね。サバクの新聞11月11日とかやかくいわねる筋合いはないよ。

スランプ ビデオミナトの新聞嫌い。

ナイル サバクよりはマジなんだよつね。

スランプ だってあの人たちの11月11日通りになったら戦争になっちゃ11月11日なんだもね。

ナイル (笑) もうなつてんだよスランプ。戦争なんだ。サバクの新聞だけ読んでるとわかんないかもしれないからね。

スランプ それじゃミナトの新聞も買って11月11日か？



ギーコ あれ、何で騙すのよ。メテンっていうんだらうね？。メテン……。何語？

スランプ それはあれでしょ。え？ 知らないの？

ギーコ なに？

スランプ あのほら、マヤ文明でしょ？ あの大陸の方ね、

ギーコ マヤ文明？

スランプ うん。あそこあの、エル・ミッドールとかナクベっていう有名な古代遺跡があるんだから、そいつのがメテン低地っていう場所にあるんだよ、

ギーコ はいはい。

スランプ でその、メテン低地の遺跡の近くに住んでる人がね、その、観光とかで来る人と商売をやって暮らしてただけね、全然あの、そいつらにはあるしよつもない食器にちよつと土とかをつけて？ 古代遺跡のあれですよ、ななつって売っててね。そんでななか、メテン低地の人

間は騙すな、みたいなの？。メテン、騙す、騙す、メテン……。みたいなの。あはははは……。信じてる。

ギーコ なにちよつと嘘なの？。ええ？

スランプ 信じてないでしょ、普通。

ギーコ もう、なに……。？

スランプ いや、ただね、本当にメテン低地ってのはあるからならね。そは、メテン低地だからー

ギーコ な、なに、ファクト？

スランプ 事実ってことだよ。

ギーコ じゃあ「事実」って言葉はいついかな？。なななのホント。

---

### ◎早朝 トイレットは茶を

---

ナイル、コーヒーカーップを持って帰っている。

ナイル 何、何の話してるの？

スランプ ファクトのこと。

ナイル 何だよ、それ？

ギーコ 違う。なんだっけ。

スランプ だからあのんだよ、イタガキさん

ギーコ あー、そいつ。

ナイル ふうん……。

ナイル、座る。ギーコ、席を立てて先ほども書いていた手帳をナイルに渡す。

ギーコ はい。お願いします。

ナイル うん……。

ギーコ お湯まだ余ってる？

ナイル んー、一人分ぐらいならギリギリ。

スランプ あ、やろつか？

ギーコ いやーいいよ。トイレ行くついでだから。

スランプ へえ、忙しいね。

ギーコ ん？ 何が？

スランプ いや、出したり、入れたり……なんか？

ギーコ スランプも飲む？

スランプ トイレ行くついででしょ？ いやー。

ナイル 別にトイレでお茶入れてくるわけじゃないんだから。

ギーコ 何者えてんのよ。

スランプ、席を立つところですが、ギーコそれを制する。

ギーコ、退場。

スランプ、ギーコが渡した手帳を示唆して、

スランプ まだやってたんだ？ その、……夢診断？

ナイル ん？ ああ、……本当に久しぶりだよ。あの、あいつ来て以来また、

スランプ でもさ、ナイルさんその、ギーコの見た夢が実際どういう意味があるかわかんの？ そんなの専門家みたいな人じゃないとわからないんじゃない？

ナイル だから一応、ギーコの専門家てことばね。

スランプ へー？ じゃあ、わかるんだ、いんごん？

ナイル 本人が書きたいってものを止められないでしょ？ あれだよ、お前がクッキー焼くのと一緒だよ。

スランプ 違つよ。クッキーはちゃんとだつて、収益があるもん。

ナイル うん……。収益があるかないかはでかいな。

スランプ デカイよ。ね・それよさ、イタガキさとしてギーコの何だつたんだと聞いてっ。

ナイル 何っつ？

スランプ よっぽどなんか大事な人だったのかね？

ナイル ぶじつ？

スランプ やーね、最近すっごい遅くまで起きてるみたいだからギーコ。夜中に歩く音がずっぴギシギシしてて。あれじゃない？ あの日に日記みたいの渡されたのあったでしょ？ あれをね、こ

う、う、読んでほワロウロ、んで、また読んでほワロウロ、みたいなの。絶対そんな感じだと思つよ。

ナイル よへくわかなそんななの。

スランプ ナイルさんがわかな過ぎなんだよ。ずーっと音してるからあたしも寝らんなくて。

ギーコが再登場。

ギーコはナイルの背中側のほうから来るので、ナイルより早くスランプがギーコ存在に気づく。ナイルはギーコの接近に気づかず、



ナイル あれが本物の板垣くんだったら、ギー「はじつに良かったんだらうね？」  
スランプ んー。  
ギー まあ、お話とかしたいよそのりゃ。  
ナイル (ギー「にげびつ」) ああ……。  
スランプ え、ギー「はじつに」イタガキさんって人は、お話とかしたい人なんだ？  
ギー でもまあ、会えるわけじゃないからねえ……。  
スランプ なたむ？  
ギー 死んでるから。  
スランプ え？

少しの間。

ギー 軍からさっしとお知らせしてもらったし、あたしの中ではさっしと片付けちゃったから……。  
スランプ でも、それって、もしかしたら行方不明になってたけど実は生きていて、みたいなことがあったかもしれないわけでしょ？ あの人の言ってることがホントだって可能性もあるわけじゃん？  
ギー んー。  
スランプ でも全然似てないんだもんなアイシ。  
ギー だけどなんか、……やっぱり自分のどこかどなとていっけなう、あるんだらうね、なんか。ナイル 願望っていつか？  
ギー いや、願望していつかじゃなくして、何？ もう一回会えたらいいなー、みたいなね。ナイル それは願望だね。  
ギー いや、わかっただけじゃあ80パーあんなにっけなう。だから……さっしと片付け、なんか、うん。なたむしていつかどなとていっけなう、さっしと片付けなう。  
スランプ うん。……。  
ナイル だから願望でしょ？  
スランプ でも結局、帰ってこなかったね。  
ギー うん……。え、何しに来たんだと思うナイルは？  
ナイル お金、ついていってただけだね本人は。  
スランプ 言っていたね。お金、ついて言っていた。  
ギー ひん……。……。

ギー「ロ、ロ、ロ」ふいに立ち上がって外出の準備を始める。

スランプ どうにかさっし……  
ギー ちよっけなう。……。  
ナイル やめた方がいっけなう。……。(新聞を指して)「完全封鎖」だって

いつくるからわ。

スランプ 封鎖とかないわー。

ナイル あるんだよそれが。国境にまたがる移動は全面禁止だつてよ。

スランプ ないわー

ナイル なくねんだよだから、

ギーコ ま、でも行ってるよ。

スランプ もしかして探りに行ってるじや、彼を？

ナイル え、そつなの？

ギーコ じゃなくってさ……。ミナトの新聞買ってる。

ナイル いやーよ。読まないから別に。

ギーコ あたしが読むんだけど。

ナイル ああ……。

ギーコ それにスランプさん、今日、何日かわかってはりますか？

スランプ ん、二十五日だけじゃ？

ギーコ フェニキアン発売日やん。買わなあかんやん。

スランプ なになに？ 何で今月に限ってそんなんフェニキアン押してなんぞ？

ギーコ あれ、あんた知らんの？ ややわあ。今月あねやで、家庭で作るフスキー特集やで？

スランプ げ、要チェックやんかあ。

ギーコ せやろ？ ならあべこべじゃ。

スランプ べいべい。

二人、席を立って出発の準備を始める感。

ギーコ ほんならあと、よろしゅうたのんます。

スランプ ます。

ナイル、黙ってうなづく。

ナイル 突っ込まないぞそんなもん……。

午後

◎午後 夢日記の時間

ナイルが一人で夢日記を読む時間。

このシーンで数時間が経過する。

ナイル 板垣を自称する「セモノ」の男が来た日の夜、久しぶりに鳥の夢を見た。いつもみたいに私は鳥になっていて、鏡の前で立って自分の皮膚をじっけりと観察している。そのあと私は、沢山の皮膚のただれた鳥達に混じってよくわからない形の肉を食べ始める。ひとつの肉の塊に沢山の鳥達が群がって大騒ぎ。他の鳥達は私をどかさないと自分の分け前が残らないと思って、みんな必死。それでも私はどかない。どいてやる理由がどこにも見つからない。と、思って肉を食べていたら、それが私の猫だ、ってどこに気がついた。私はいっぺんを悟る。さっきから一生懸命になって私が食べていたのは私の猫ちゃんだ……。ママ、パパの毛並みには見覚えがあった、そうかそうか！と、思うと、見る見る肉の塊に毛が生えだしてびっしりと肉の全体を覆いつくした。

ギーコ そこで目が覚めた。目が覚めても、なんだか私は鳥のままみたいな気分がした。そうだ、私はどかない。そう思って、鏡を覗くとそこには、ただれた皮膚の私が立っていて、私はどかなくていいんだ。そう思った。

ナイル 突然、身体の方こう側で私の夢と板垣の日記がパシーンと繋がった。

ギーコ 理由はわからない。根拠なんて何も無い。だけど、これを書いたのは絶対、板垣だ。

ナイル 昨日リビングで会ったあいつが本物がどうかはわからないけれど、少なくとも、この日記をこの紙の方こうで書いたのは、確かに私の知っている板垣だ。

ギーコ いつかあの人がこの紙の方こう側について椅子に座り、ペンを握り、そしてこの文章をしたためた。という確信。

板垣 そう思ったら、この紙はもうただの紙ではなくなった。

ギーコ 十数年ぶりにあの人の手に触れている。という確信。

◎午後 板垣、再び

板垣、登場。

なにやら疲れ果てた様子で服のあちこちが汚れている。

ナイル あれ……？

板垣 じいせ

ナイル あれわれ、どうしたの？

板垣 いやーホント、散々な目に遭っています。ちょっと水もらしてもどうですか？

ナイル、早速水を取りに行きついで。

ナイル 歩いて来たの？ ミナトから？ (驚き)

板垣 だってしょうがないでしょ？ すっからかんなだもん。

ナイル 車どつしたの？

板垣 売っちゃいました。

ナイル なんで売っちゃったんだよ。あ、国外へ出ようとして？

板垣 そうですよ。どうにか船に乗り込むまでは良かったんですけど、船の中でまた金出せって話になっちゃって、だれもいっもお金はなかったし、そんなまあ、追いつかなくなっちゃって、立ち往生ですよ……。

ナイル びん詰めのネズミってやっだ。

板垣 びん詰めの……？

ナイル あれ？ (新聞を示して) 読んでない？

板垣 ああ……。あれは、我々全員のことを言っているんだよ。

ナイル お、嬉しいね。カルタゴ市民を指して「我々」って言うんだよ。よしよし、市民同士の会話が出来ると感じるだな。

板垣 他の人はどつしたんです？ ギーゴとあの、あの……、

ナイル スランプね。二人で買い物行ったよ。ミナトの新聞買って帰るっついで。あんたはミナト派？ サバク派？

板垣、その質問には答えない。傍らに置いてある鳥カゴを見ついで、

板垣 何ですかこれ？

ナイル ん？ ああ、……鳥カゴだよ。

板垣 鳥カゴ？

ナイル どう見たってそうだろう。鍋に見えないだろう？ サラダボールに見えないだろう？

板垣 見えません、見えませんが。いや、鳥カゴにじゃ鳥がいらないから……。

ナイル いや、元々いねえんだ鳥は。

板垣 はあ……。

ナイル 鳥は居なかつただけで、鳥みたいなものが入っていたっついで……

板垣 みたいな？

ナイル エレファント。

板垣 へー、こんな小さなカゴに、……家が？

ナイル 入らねえよ。

板垣 ですよ。へー。鳥型のエレファントなんて、そんなもんがあるんですか？

ナイル おう。見た事ない？

板垣 いや、こいつか、エレファントは人型のもんだだけだと思ってました。え？ だってあんたも

ん個人で所有できるもんなんですか？

ナイル あ頃は軍の方にもシテがあったからそっちから融通してもらったんだけどさ、いや、エサあげる時に逃げてっちゃって。でもなあ、……なかなかコイツを片付ける気になんなくて。

板垣 へー？

ナイル なんといつかさ、鳥がいなくなったって、籠がありゃ面影みたいなもんは残るだろう？

少しの間。

板垣 なんか、ロマンチックなところこの言つの気持ち悪いっすね。

ナイル うるせえな。食べる？

板垣 何すか？

ナイル ん？ クッキー。

板垣 ああ……

ナイル 通信販売つすから袋詰めしてつね。

板垣 へー、わざわざ通販でそのクッキー買った人がいるんですか？

ナイル 居るんだよ。いやね、俺も最初はよへわかんなかったんだけど、こわはいわで奥が深いっつういかな。

板垣 はいはい……。

ナイル クッキーついてもいそんなものがあるんだな。確かにスランプのクッキーはね、値段のツリにはマシな味がするぞよ。

板垣 へー。じゃ、ひとついただいてもいいですか？

ナイル お？ うん。

ナイル、クッキーを渡す。

ナイル ……はい。

板垣、それを食べる。

少しの間。

ナイル とうろであんた本当に板垣って人なの？

板垣 ギーコはなんかいつてました？

ナイル 日記を書いたのは本物だろうっつう。

板垣 あ、あ、あ、あ、あ、あ、信じてくれただとびすね。

ナイル いや、日記はね。あんたの事は知らないよ。

板垣 ああ……。濃いつすねなんか。

ナイル ん、合わない？

板垣 ちっつ……。？

ナイル じゃ返した。

板垣 もう食っちゃいましたよ。

ナイル 合わないんだらだって？ ま、人それぞれ、最高の一枚では違っからな。

板垣、知った風な口を利くナイルが可笑しくて少し笑う。

ナイル、少し身乗り出すような形になって、

ナイル しかし筆跡とか骨格とかそういう状況証拠は揃ってたからさ、あとは一つだけなんだよな。

板垣 何ですか？

ナイル 何であんたが自分の顔を作り変えなくちゃいけなかったのか？ 俺もあの日記読ませてもらったんだけどどうしてもそこがわからない。

板垣 まあ、ニセモノですからね、ほんとは。

少しの間。

板垣はクッキーを食べている。

板垣 ……なんついたら満足なんでしょうけど、そうでもないぞ。

ナイル じゃ、どうして顔を作り変えた？

板垣 だからこの間説明した通りですよ。「完全には元に戻りませんよ」って医者に言われちゃったから……。

ナイル ちょっと待って、あんた、ベルベル戦争に行ってたってことはいいたよな？

板垣 え？ ああ、そうですよ。従軍してらしたんですか、あの、ナイルさんも？

ナイル まあ、俺は内地で後方支援だけね。昔から肺が弱いからな。

板垣 それはまたよくある嘘だ……。

ナイル (笑) 嘘じゃないってことがまた情けないだけだな。そうか従軍してたっていうんならもうちょっとあんたを大切にしくちやな。

板垣 いいですよそんな……。

ナイル いやでも健康診断落ちた時はびっくりしたな。なんか思わずガッポーズしてさ。良かったー、って。自分じゃそれなりの覚悟があるつもりだったんだけどな。命も惜しくない、なんていつか。

板垣 まあ……そんなもんですよ。

少しの間。

ナイル そしたら顔は何、爆撃か何かでやられちゃったわけ？

板垣 多分、手榴弾って話なんですけど、自分じゃ何も覚えてなくて。その、怪我をして何日間かは記憶が飛んでいっちゃった。



ナイル　なんだったら一緒に検討してみる？　かつて板垣が書いた日記で、それを読んでギーロが見た夢で

板垣　うごきますよ。ぶっせびん詰めますからね。

板垣はナイルから少し離れる。

板垣　でも、もしもエムトが「じ」に来たら、うっと思ひよなわなわや面ロくひなな……。

ナイル　なに？

板垣　俺が自分の顔をその、無くしたみたくなった時にね、結構精神的にも不安定になったんですけど、随分あいつに助けられたんですよ。怪我をしてからはしばらくの間は包帯グルグルってつか、顔が無い状態でしたから……。

ふっつん。

板垣　ぼんやりしてへるんですけどね……。多分、思っている以上に人間てのは、鏡に映っている自分の姿に支えられて出来てるとですよ。だからそれが変わっちゃうと、わからなくなっちゃうと必ずやぶ……。本当の顔とか、本当の気持ちとか、本当のじぶが、なんだかこうしてぼんやりして始めるとやぶ。

舞台の上のじぶがギーロが板垣の日記を読み始めると。

板垣はギーロの夢日記を読み始める。

---

## ◎午後　日記と夢と日記

---

板垣とギーロはそれぞれ、書き手と読み手が逆になってくる。

ギーロ　明日から前線に行けるように志願した。何だかんだといつとも一兵卒の馬鹿でも俺のじぶを趣味で戦争にきた金持ちの坊ちゃんだと思ってる。食事の時間にも露骨にそれが出る。だいたい誰も俺と一緒に座りたがらない、じぶと俺のじぶ「こんなものがお口に入りますか？」なんてことを聞いてくる。イヤだよ。クスでもだ。カルタのために戦つ同士は言葉、こんなクスでもと一緒にメシを食つのは戦闘よりも激しい苦痛だ……。

ギーロのじぶを考へる。ギーロが止めるのも聞かず「じ」に来たところのギーロのじぶはから考へてしまふ。愚かだ。ギーロとセックスをすずめを捨てて、ギーロとオナーにぶける生活を手に入れるとじぶに何をしようのか自分もさっぱりわからない。苦痛。

板垣　今日はスランプが夢に出てきた。夢の中で争う。私はずいぶん興奮してしゃべって、スランプも顔を真っ赤にして怒鳴っている。だけ、そのうちにスランプは口をモロモロをせせてはっか



りになってちゃんとした理屈では私に返すことができなくなって、涙を流し始める。私はそれを見て  
いっ気分。

ハービーの店のスピーカーが大きな木琴の音を出している。マリンバっていつのかな？ あれは。

スランプは私に跪いて謝る。ポロポロポロ、スランプの涙が宙に舞って音になる。音符になる。  
謝っているスランプを良く見てみると、人数が増えている。涙があふれる。マリンバの音が跳ねる。  
スランプが増えている。

跪いている大勢のスランプのうちの一人が、いつの間にかナイルになっている。私はナイルを踏みつ  
ける。どうしてだろう？ 私はどうやってナイルのことを踏みつけてみたかったのかしら？ と思っ  
て目を覚ます。

顔を洗って鏡の中を見ると、向うにスランプが立っていて息が止まる。私の夢の中の喧嘩が今でも  
続いているみたい。バカじゃないかしら。あたしも、スランプも。

ギーロ 今日から監視塔での任務らしい。塔はいつまでも名ばかりでむしろヤグラという言葉が似合  
うような頼りないコロコロの塔。何かせよ志願が認められて最前線の監視塔に立てるとは嬉し  
い。監視塔に登る階層のはしりを登る時には足が震えた。「大丈夫だ。敵が来たら真っ先に気づく  
はお前だ」など、冗談を言われる。敵が恐ろしいのではない。俺は監視塔が高くて怖いのだ。どう  
しようもないな。高い場所は何故怖いのだろう？ なんか考えも仕方ないことを考えながら監視  
視塔に登り、今、その上をいれを書いている。双眼鏡と厚手の手袋。吐く息が白く。

さっき双眼鏡にして初めて敵兵というものを見た！ 身体の内側がフワフワする。笑いたいのか叫び  
たいのか自分でもわからず、画面足をもじもじすり合わせる。ようやく戦争に来たんだ！

なにやら敵兵に動きがあるような気がする。少しも、わずかなことでも、総攻撃の準備のよつに感  
じる。それは勘違いかもしれない勘違いではないのかもれない。もうすぐ総攻撃が始まる。それ  
は本当なのかもしれない。

板垣 今朝は夢を見なかったような気がしていたけれど、このノートを開いて、パンを持ったら思い出  
した。思い出したのが、今、自分で考え付いたのかはわからない。顔に怪我を負った板垣が、小さな  
机を前にして座っている。板垣の顔は包帯でぐるぐる巻きのようになっていて、何も見えないので、目の前  
に置いてあるロッスペンを掴むことができない。パンは少ししゃしゃいって、二つに割ると  
中からほかほかの湯気が出るような、まだ焼きだてのロッスペンだ。その横にはスランプが作ったバ  
ターが置いてある。このバターは本当においしいのだ。

私は意地悪をして彼にロッスペンを渡してあげることをしていない。もぞもぞと手探りをする彼を見てい  
る。何も出来ない彼を見ていて、とても幸せ。ロッスペンを手探りする彼を見ている私を、スランプ  
が見ている。スランプは私と目が合うと、嫌なモノを見たといった顔をして、すすすと私の前に出て  
板垣にロッスペンを渡す。板垣はありがとうとありがとうとスランプに礼を言ってパンを食べる。ガツ  
ガツとパンを食べる。

……私はスランプをぶん殴りたい。私はスランプをぶん殴ってやりたい。私はスランプをぶん殴った。するとスランプは殴られたクセに大笑い。本当にあたしのことをバカにしているのだと思ったり、くやしくて涙が出た。

ギーコ 夜半に総攻撃の合図が出るという。それまでの待機。仮眠を取っておくと班長に言われたがとてもそんな気持ちになれない。ただ、ただ、怖い。想像する力が根こそぎ奪われて、ただ、眼前の恐怖にだけ意識が固定されて動かせない。雨の音。雲の隙間から時おり月が見える。手が冷たい。

板垣 眠れない。ベッドで二時間ぐらぐろぐろぐろしてから眠るのを諦める。代わりに板垣の日記を読んでみる。呼吸が浅くなって忙しいため息を沢山つく。何か大切なことを決めなくちゃいけないはずなのに、ちっとも考えがまとまらない。何をしたらいいのかわからなくなって、部屋の中をグルグルと歩く。

二人 書~~き~~言葉と書~~き~~言葉には身体がないから。

ギーコ 二人は一体どうやって出会ったらいんだろっ？

少~~し~~の間。

ギーコ グルグル歩いてても何も変わらない。それでも、グルグル歩くこと以外、出来ることが何も無い。

板垣 敵が攻めてきて、何もわからなくなってしまった。目の前が赤い。身体中どこを動かしても痛み。声がすつかり枯れてしまっている。口の中が乾いてしまふ舌が動かせない。ぐらぐら。うめえ。つかれた。……ぐらぐら顔が無いらしい。俺の傍に、すつとつかつかつかにいる男がいる。男？ 男だと思つ。何もしゃべらない。その男は俺の傍にいて包帯を取り替えてくれる。俺の身体を少しでも拭いてくれる。俺の口に飲み物を運んでくれる。水が火のように喉を焼く。飲まなければ良かったと思つほど喉が痛い。胃が痛い。だけど痛みを感じている俺とは別の人間が、生きるために水を飲もつとっている。水が熱い。水が熱い。水が熱い……。

夕刻

◎夕刻 板垣とナイル

ナイル 水が熱いんだったらそれは……「お湯」だね。

板垣 そっす。そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……そっす……

ナイル 知っている知っている。あーあ、じ……。

二人、日記を読むのを中断して一息ひ。

板垣 ナイルさんは、ずっとここにいますか？

ナイル ん？

板垣 港の方に出たりは、しないんですか？

ナイル 何、どういふ意味？

板垣 軍には戻らないんですか？

ナイル ああ、軍……。

間。

板垣 いや、ナイルってどこかで聞いたことあるなあ、と思ってミナトの方で調べてみたんですけどね、いや、驚きましたよ。まさかこんな町外れのさびれたガソリンスタンドに？ かつてのカルタゴ軍の大幹部が隠居してるなんて思っても見ませんでしたから。

ナイル 戻らないよ。

板垣 どうして？ あなたほどの人が？

ナイル 一応、辞めさせられているわけだからさ。大人しく隠居してんだよ。

板垣 それはあなたが協力的でなくなったからでしょう？

ナイル やめよう、そんな話は。今さら軍には戻れないし、戻る気もない。

板垣 そうですか……。すみません。

ナイル いや……。

少しの間。

ナイル あんたがギーロに貸している金っていつのはじむべからうなの？

板垣 んー、あいつの持っている金の全てに近いんじゃないですか？

ナイル 乱暴だな。それじゃ交渉にならないじゃない。

板垣 わかんないですよ。株券とか土地とかは運用の仕方にもよる……。でもギーロって今でも結構金持ちなわけでしょう？

ナイル ま、そっだね。

板垣 だったら額はそんなとっちらかしていいよ。

ナイル んん？

板垣 あー、うちのじいさんがものすごい金を持ってるといつか、そっいつ人間だったんで。俺が預けた金っていつのは、大体、その分け前なんです。だからまあ、どっちらか……。

ナイル なんかおかしくないかそれ？ 金がどっちらかしていつんだったらつまりあんたは、ギーロに会いに来たっついでしょ？ それなら、どっちらかして最初来た時、そっいつ風に言わなかったんだよ？ 結婚関係っていつか、マァ、少な〜くとも俺に近いよっつな関係だったわけだろ？ あんたたちは？

板垣 まあ、そっですわ。

ナイル そしたらなんで、金だけ返してもらえれば、みたいな、そっいつ言いだったんだよ？

板垣 そんなのわかぬじゃないですか。

ナイル なんだよ？

板垣 だって、俺がここに来たとき一番最初に出てきたのは、あなたですよ？

ナイル (無言でうつなずいてから) ああ、……そうか。

板垣 はい。

ナイル だけど俺はそういうんじゃないよ。そういうのじゃない。今は、もう……。

板垣 ナイルさんはなかなか俺を本物だとは認めてくれないでしょうね。俺とギーコが元通りになっちゃったら、ナイルさんの願望とはかけ離れた展開ですもんね。

ナイル、無言。

板垣 なんか、恥ずかしいじゃないですか？ もう帰って来なくてもいいよって奴が帰ってきたちゃって、そんでなんか、もう、人間関係的には居場所がないのかな、とか思ったんで。あー、だからスランプさんがあなたの奥さんだったらいいと思ったんだらうな。俺の願望ですよ。

ナイル うん……。

板垣 正直どうなんですか？ 人間関係的にはなんか、付け入る余地が残っているんですかね？ ギーコとナイルさんの間……？

ナイル んー、頑張り次第じゃないか、君の？

板垣 ありがとうございます。あ……、頑張っていいんですね？ その一言、地味に超デカいですよ。

ナイル 超デカいんだったら地味じゃないよね。

板垣 あ、ほんとだ……。派手だ。派手にでかいですよね。

スランプ登場。

スランプ ただいま……。

ナイル おっ、お帰り。

スランプ、元気がない。手ぶらである。

板垣 あ、どうせ。

スランプ あ……。

スランプ、板垣の存在に驚く。が、その疑問をすべてに追求する元気はない。

ナイル あれギーコは？

スランプ すぐ来んじやない？ 車だよ。

ナイル そう。(板垣に)そしたらスランプ、彼に、ちょっと身体拭くタオルと食べるもの用意してやっつよ。

スランプ ええ？

板垣 あー、いいですか、そんなじじいって？  
ナイル いいよいいよ。だって休んで無いんだろ？  
板垣 はい。すみませんなんか。いや、砂がすいてほしい。  
スランプ やだ。自分でやっぴ。

少しの間。

板垣 あ……、じゃあ、全然あの……。

ナイル 何でもいいから別に。ちょっと頼むよ。

スランプ、黙って奥に引っ込む。

ナイル (奥に向かって) 何、どうしたの？

スランプ なに食べたいの？

ナイル んー、どうする？ 割とガツリ食べる？

板垣 (板垣に) や、腹も減ってますけど、とりあえず横になりたいなってどうか……。

ナイル (奥に向かって) じゃ、ちょっと軽いもんでいいよ。(板垣に) 悪いね、なんか。

板垣 やー、ありがとうございます。(小声で) なんかあったんですかね？

ナイル さあ？

---

## ◎時刻 セレクション

---

ギーコ、登場。スランプの分の荷物まで持っている。怒り気味。

ギーコ スランプは？

ナイル おう、いるよ。奥、奥。

板垣 おかえり。

ギーコ いただきます。ちょっとスランプ！ っていうか……んん？ なんであんたが居るの？ しかも何、おかえり「っっっ」。

板垣 え？ や、自分も「いただきます」っ。

ギーコ それは条件反射的にさ、ええ？

板垣 や、ちよっつとさるあつて、

ナイル ま、めっつとさるあつて、

スランプ、濡れたタオルを持って再登場し、それを板垣に渡す。

スランプ はい。

板垣 あ、あ、どうせ。

ギーコ ちょっとスランプさん？　なんで荷物置いてサクサクいっちゃうわけ、ちょっと？  
スランプ あたしのは別に置いていくわって構いませんけど？

ギーコ なんなの？　謝ってんじやんとしかがら。  
スランプ はあ……。

ギーコ いいじゃん、あんた一人だったら思いつきもしないことなんだから。

スランプ はんと取へないよそいつの態度は。ズン取へない。そいつなんか、開き直った感じじゃ、  
ナイル なになに？　どうしたの？

スランプ 別にどうもしないけど

ギーコ 違つものだから、なんかこの子のクッキーがすごいおいしからね、コンガ・セレクション  
ていつ、ちょっとどっかのお菓子のコンクールみたいのがあんだけど、それにあたしが応募して  
あげただけだね。

スランプ 頼んでない！　なんで勝手にやっついでそいつの言う方すんの？

ギーコ それがなんか気に入らないんだって。

スランプ ちょっとね……。

ナイル なんで怒ってるの？　いじやん別にそんな、

ギーコ でしょ？　しかもね、それで見事コンガ・セレクションの佳作に入选したわけ。

ナイル お、それすばらしいじゃん。今日から君もコンガじゃね。

スランプ 全っ然すばらしくないし、コンガでもない！　むしろ最悪に近いよ、だってね、ふー  
……、じゃ言っけね、聞いてちょうと、だって、この人、自分の名前でも応募してるんだよね？

ナイル あ、え？

スランプ ありえないでしょ？　そでこの態度だからね。

ナイル そいつなの？

ギーコ それはだから、……あたしが応募するのは勝手にスランプの名前を書けいけないから、  
スランプ 勝手にかいつんだったたら自分の名前を出すほうがよっぽど勝手にしょ？　そいつかそも  
そも応募する前にあたしにこんなか一言あったらどうしていいんですか？　てか当たり前だよ？

ギーコ だって……。

スランプ まだあるいはね、一緒にクッキー作りに励んで来たというんならいいですよ？　しか  
しながらそのような結果は一切ないわけですよ。あたしが、一人、作ってきたわけですよ？　な  
んぞそれで応募して入選とかしちゃったの？　どうしていいんですか？

ギーコ 声が大きい……。

スランプ はあ？

板垣 だったらあの、賞品みたいなものをスランプさんがもらえば、ね、それでいいんじゃない？  
ナイル ああ、そうだね。そうだ。

ギーコ あたしもそいつのただけじゃ、

スランプ だってただけじゃないよー。何言ってるの、ほんとに……。あの賞品の話は  
スランプに行ってお菓子について勉強してほしいって、その権利なだけだね

板垣 スランプ……。

スランプ そうだよ。てかスランプのいつだったらちよっぴお菓子作ったとある人間ってはい

度は行ってみたい、ってさういふ場所なのさ。だけども、あたし残念ながら「キー」をとって名前ではありませんで、それに参加する権利を有しておられませんのさ。

キー「だからあなたが「キー」です」って行って行けばいいじゃん、そんだけの話でしょ。

スランプ「イヤです、そんないふはー」

キー「どうして？」

スランプ「なんであたしが自分の力でもったよなのさ、そんなんか、ズルみたいないことさへちゃいけないわね？」

キー「ズルとか思わなければいいでしょ別だ……」

スランプ「それでさ、向こうであれこれ人間関係とか作ったら全部「キー」「」で通さなくちゃいけないわねでしょ？ そんか、かわいくない名前はいやです。」

キー「はあ？ 別にあなたの名前だって大概かわいくないかなじゃないさ。「スランプ」。ふるわなごう。この世にまだとてなごうふるわなごう名前なとてなごう。」

スランプ「何なの？ 何でめたてたいはね、それおきておいてさういふお話を保持者が全くないわね？」

キー「謝ってさういふ、さういふから何回謝りせねば力が落ちまの？ さういふ「迷惑をおかけしましたね。」

スランプ「そのね、「」迷惑をおかけしました」ってのは簡単な事実の報告だから。「」迷惑をおかけて大変申し訳ありませんでした」まで言っていて初めて謝罪しろってかよー」

キー「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ「聞いてさういふごう。」

スランプ 何がですか？

板垣 あ、いや……。。

スランプ、無理に話題を転じて。

スランプ 板垣をばばいするつもりですか？

板垣 ん？ 何がですか？

スランプ お金。返してももらったらばばいするつもりですか？

板垣 ああ、それはまあ、……。全額慈善団体に寄付して？ 恵まれない子供達が救われるように使いますよ。

スランプ またそうやって……。。

板垣 何か変なことをしました？

スランプ ……え？

板垣 ん、なにが？

スランプ え？ ほら……。寄付するんですか？

板垣 ちょっと待ってください。ん……。。

板垣、考えませ。

板垣 ダメだ。子供達のいじりか考えられない。

スランプ 何なのほんと。

スランプ、少し笑う。

板垣 だってその質問に正直に答えたら俺なんか利益あるんです？

スランプ 利益なんかなくたって、質問には正直に答えるんです。

板垣 どうして？

スランプ どうして。

板垣 じゃスランプさんは利益に関係なく正直に答えるんですか？ じつな質問じゃ？

スランプ まあ、普通のことだから……。。

板垣 それじゃ質問したいことばばい、

スランプ なんでですか。

板垣 ギョーのいじり、本当はばばい思っているんですか？

スランプ 別に……。お友達？

板垣 お友達。もう少し詳しく。へ。

スランプ うーん。昔からのお友達ってわけじゃないんだけど、大人になってから出来た数少ない友達の一人、……。かな。とか、あれ？ いじりいじりじゃない？

板垣 違う、結構お友達です。



スランプ　　きっかけはあの、最初に会った時にものすごいギョロが酔っ払って、漬れる直前くらいか、そういう感じですか？　だから大丈夫ですかーって声かけて……、

板垣　　すごいですね。じゃその時点では赤の他人の人を助けてあげたわけですよ。

スランプ　　ま、それまでも見かけたことはあったし。なんかさう、ギョロは目立つ人だったし。

板垣　　目立つ……？

スランプ　　ホラ、顔の傷のこともあったし、

板垣　　はいはいはい。

スランプ　　ていつかあの傷って昔からずっとあったんですか？　その、板垣さんが一緒にいた当時か……？

板垣　　初めて会った頃にはなかったですけど……。

スランプ　　へー。え？　もしかして板垣さんが？　(殴るような身振り)

板垣　　そんな悪いことしませんよ。事故で、さう。

スランプ　　あー、事故。

板垣　　そうですよ。え、スランプさんが作るクッキーは何でうまいんですか？

スランプ　　急に話変わりますね。

板垣　　はい。その話はずいぶんかたくなって。え、何でなんでしょうか？　なかなかブレインデーにひけたみたい  
なあれは、……木の葉ですすめね？

スランプ　　そうですよね、まあ、クロの実なんでしょう。

板垣　　クロの実ですか？　ふーん。

スランプ　　あんまりお上品がらませた……？

板垣　　ですね。

スランプ　　クロの実をブレインデーにひけた、

板垣　　ブレインデーはもっとう、モロにお上品がりました。

スランプ　　はははは。よく分かりましたね。

板垣　　儲かるんですけど……？

スランプ　　まあ、お陰様です。

板垣　　へー。

スランプ　　はははは。俺はただの生活しててはみるのいぼいぼじゃないけど。趣味だよ、おぼいぼ。

板垣　　そんなじゃあおぼはガリンスタンドの稼いぼ……？

スランプ　　そっちの方がもっと趣味。クッキーの半分も儲かない。

板垣　　え、じゃああなたでやってるんですか、スタンド……？

スランプ　　ん？　なかなかだしてガリンスタンド……？

板垣　　……はあ……？

スランプ　　なんか元気が悪い感じがして……？　『酒がお上品のガリンスタンド』！

板垣　　それは酒の話じゃ……？　ガリンスタンドじゃあない。

スランプ　　いいじゃない。とにかくガリンスタンドが大好きなの。

板垣　　へー？　そんなこと言いつつ人始めてますよ。ガリンスタンドなんでしょうか？

スランプ　　スランプ　　マリアってわけじゃないけど、ま、ま、生活必需品　みたいなの……？





スランプ 別にあたしだってギターが何、あたしの手柄をとるじゃないけどさ、そんなことしようとしたなんて思ってるわけじゃないんだよ。だってあの人がある、この町を出てズコンピに勉強に行くなんて、そんなことできるわけないし、本人だって望んでいないし、でもさあ、……あたしも何となく、いつかはコンガ・セリフシヨンに応募しようかな、なんて思ってたよって来たわけだから、やっぱりなんか納得のいくものが出来てからにしようと思ってたし、ま、納得のいくものが出来たってあたしだけだったらすっさと応募なしてしなかったのかもしれないけど……。

少々の間。

スランプ そりゃ嬉しいよ実際。名義とかはまあ、気にならないっていったら嘘だけど、あたしのクッキーが品評会に出て？、それがちゃんと評価されて入選、ていうか佳作ってことになったわけだからさ。だから嬉しいんだよね……。本当だったら嬉しいし、それと別に、「ギター」にありがとう、とか言いたいし、言えたよ全然。その方がいいのにな。仲良くなればいいのにな……。仲良くなればいいのはわかってるし、出来るのにな……。ギターがそんなに悪い人じゃないってのもわかってるし、本当は別に、「受」があったら良かったわ。この気持ちだったよん、全然、あたしにだって理解できるからね。

ゼンコン中にステップの転び音がし始める。

いつしかそれが爆弾の落下する際に空気を切り裂く音へと変わる。

セリフのおしまいに大きな爆発音。

同時に照明変化。

音楽。曲 in。

## 第二幕

### ◆字幕 二幕

マジーナ・ファミリーの国外逃いで

市長派の人々は大きな失望に包まれた。

数日後。

スキピオ軍による最後通牒が出され、

ほどなく、総攻撃が始まることになる。

敵は不死身の『マクスウェルの悪魔』

半年を経ずしてカルタゴの人口は、

4分の1となる。

ただ、それはまだ先の話。

今は総攻撃が始まる、その前日のこと。

物語は次の夜を迎えずして終わりを告げる。

夜

### ◎夜 抱擁

ギーコと板垣が二人、抱き合っている。  
暗闇の中。

ギーコ　ね、もしもあなたがね……。

板垣　うん。

ギーコ　「嘘じゃないよ。」「……」  
板垣　「嘘じゃないよ。」「……」

ギーコ　「……」  
板垣　「……」  
ギーコ　「……」  
板垣　「……」

板垣　「……」  
ギーコ　「……」

ギーコ　「……」

板垣 うん。……え、何を？

一人、抱き合っつのをやめて近くに座る。

ギーコ ね、ピコさんってどんな人だったの？

板垣 ん？ピコ？

ギーコ あの日記に出てくるじゃん。なんか恋人みたいなもん？

板垣 んー、のよつなもの。あ、そんなこと書いてあったっけ？

ギーコ きれいな人だった？

板垣 別にそつでもないけど。

ギーコ っも。

板垣 なんで？聞きたいそんなの？

ギーコ 別に気にしない。んーでもさ、何で日記なんか読ませよつと思ったのかなあ、と思っつ。

板垣 まあ、読んで欲しかったんじゃないかな。単純に。

ギーコ 自分が板垣だ、ってことを証明するため？

板垣 それもあるけど、……なんだろう、距離？ていつかさ、時間とか、空間とかさっつっつ、隔た  
りっつっつかな。隔たりを、つなげなくちゃ、と思っつ。

少っの間。

板垣 別々に生まれた人間がせつかくーつになつたのに別れちゃつたわけでしょ？ だけどこつやつ  
てもつ一回、一つになれたわけじゃない？

ギーコ うん。

板垣 多分俺たちはさ、ちょっと離れてたつただけで、ずっと繋がつてたんだと思んだよ、本当は。  
うん。だから……。

ギーコ 喜びそう……。そんなと言われたら。

板垣 誰が？

ギーコ あたしあたし。

板垣 ええ？いま喜んでるわけじゃないんだ？

ギーコ 絶対嬉しいよ。本物だったらね。

スランプ、登場。

ギーコ ……なめさつてっつる時に思つたつただけじゃあ

場面転換。



ナイル 今からだよ。

スランプ (ナイルに) あ、洗濯するから洗いのちゃんを出してよ。

ナイル ン？ ああ、いいよあとで自分でするから。

スランプ 一緒にやっちゃわないと面倒じゃな。

ナイル いや、それよりさ……あ、ちよつといいからスランプも一緒に聞いて欲しいんだけどさ、

スランプ うん、なに？

ナイル 俺考えたんだけどね、帰ってもらわない？ あの人は。

ギーコ え？

スランプ あの人がって、板垣さん？

ナイル そつそつそつ。

ギーコ なんて？

ナイル これはもう、流石に戦争が始まっているわけだし、なんかあつしは、怪しい。

ギーコ そんな曖昧な……。

ナイル いや、十分でしょ。「なんか怪しい奴」と一緒にいてもいなくなってしまう時と、そつじやない時があるから。

ギーコ はあ？ じゃあナイルはさ、「なんか怪しい奴」と一緒にいてもいなくなってしまう時と、そつじやない時があるってこといっわけ？

ナイル ……そつといっわけじゃないか！

ギーコ あ……。

板垣、登場。

ギーコ あ、おかえり。どこ行ってたの？

板垣 いや、ちよつとハービーの店に。

スランプ あ、煙草吸って来たでしょ？

板垣 いやいや。周りが吸ってたから。

スランプ なら、よしー！

ギーコ 家で飲んだって良かったのに。

板垣 や、外の空気も吸いたかったし。でも結構みんな浴衣着てたね、そつそつだっついで。

ギーコ ああ……。最後通牒？

板垣 そつそつ。一応今口が回避期限なわけじゃ……？ もつちゅつとびんびんつとつとかとつとつたけどつとつも通りつとつつかね。

ギーコ なんかかなると思つてんじやないの？

スランプ ま、なんもできないしね。

板垣 国外に電話して聞いてみたんだけどさ、まあ、なんとか最悪の事態だけは回避しようかと思つたけどのかつ。

スランプ へー？

ギーコ そつなただ。



板垣 うん。まさかスキピオもそのまでのことにはしなごうじゃなごうか、ってことじゃ。  
ナイル そういう常識が通用すりゃいいんだけど。

板垣 大丈夫ですよ。その手の事情には明るごうか言ごうてごうよ。

ナイル んで、大事なお話はもう済んだの？

板垣 え、何がですか？

ナイル あんだ、こじごじちちよへちよへ田かけへるかひや。誰かじ「お仕事」の話をまごうてごう  
ゃないかと思ごう。

スランプ あー、そうなの？

板垣 いや、してなごうですよそんな。

ナイル、メモを持って戻ごう。

ナイル ……じりあぐまごう。

板垣 え、あ、小切手？

ナイル 金額はそんなごう。

板垣 んん、や、でもお金はギーコが納得ごうてからごうて話ごうたじゃなごうか？

ナイル 気にしないでいいよ。俺の金だから。

板垣 ナイルさんのお金なんですか？

ナイル そうです。だから、気がごうなごう。

ギーコ え、なに、ごうてごう？

ナイル いや、なごうか、「田ごうてなごうか」と思ごう。

板垣 はごう？

ナイル 金額はごうてごうかごう。

板垣 ま、そのまごう。

ギーコ ちちごうてごう……。

ナイル ギーコはごうてごうかごうてごう。ちちごうて俺が話ごうてごうかごう。

ギーコ 何ぞね？

ナイル いろいろ回ごうてごうてごう。ちちごうて聞ごうたかごう。

ギーコ やだよ、なごうかの。

ナイル、半ばは力ごうてギーコを退場ごうてはごうて田ごうてが、ギーコに抵抗ごうた、かえって盛大に倒ごう  
わごう。

ギーコ じりあぐまごう……。

ナイル じゃ、そのまごうてごう、俺が話ごうたかごうてごうて黙ごうてごうてなごう。

ギーコ 話ごうてごう。

スランプ そねじゃあごうてごう……。

スランプ、その場を去るんじゃない。

ナイル　じゃ、お前は居てごよ。しごひを聞いて。

スランプ　え、それ……。

ナイル　ごよよ。(板垣に)　ごよよ……。

板垣　別に俺は……。

スランプ　じゃ、まあ……。

---

### ◎夜　彼女は死んだ

---

ナイル　そんで……。そのころ、ヨロしいかな……。しごひ話なごよよ……。

板垣　ワケ聞かせたせいでせよ、だいたい思はずやね……。

ナイル　うん。ギー「の」をきいて、そのほうがいいかなと思って。

ギーコ　はあ？

板垣　そんなこと聞かさないと思っただけだよ……。

ナイル　望みななかごちでもいいんだよ。俺がね、そのほうがいいかな、と思っ。

板垣　それ随分バカにした話ですよ、ね。ギー「を」？

ナイル　あんたには関係ないじゃないですか？

板垣　ナイルさんこそ関係ないでしょ？　何怒ってんですか？　どっちかっいたら俺とギー「の」

問題ですよ、ね？

スランプ　あたしじゃ……。……。(席を立ち出す)

ナイル　居て居て……。……。(退席)

スランプ　や、や、退席？　とかじゃなごよ……。……。(退席してしごひ言葉が意外で少し戸惑)

ナイル　(板垣に)　ごよよ……。……。(退席してしごひ言葉が……。……)

スランプ　ごよ、ごよ、ごよ……。……。

ナイル　じゃあ……。……。(メモ・あるごよのしごひのものを取る)　じゃメモ取っ

て、な？　メモ取っ。

スランプ　この話ごよ、を……。

ナイル　ごよ……。……。(退席してしごひ)。

スランプ　わかった……。……。

ギーコ　なんか取り調べみたい。

しごひの……。

ナイル　手短かに言っしあなたに、スパイとしてカルタゴに帰って来たごよ……。……。

板垣　スパイ？

ナイル　ごよ……。……。(しごひの言葉が……。……)

スランプ　ごよ……。……。

板垣 ナイルさん、新聞の読みすぎなんじゃないですか？

ナイル どうかねえ？ 俺のこともあれこれ嗅ぎまわってるみたいだし。

板垣 いや、あれはたまたま知っただけですよ。ていつかエレファントの開発者っていったら軍の中では結構有名でしたし、

ナイル 別にエレファントは俺が一人で作ったわけじゃないよ。

板垣 すみません、こないだのはあんま深く考えずに言っちゃったんですけど……、

ナイル (手にした日記を指して) じゃあ、ピロっていつのは誰だよ？ え？

スランプ ピロ？

板垣 ピロってのはだから、……読んだんならわかるでしょ？

ナイル あれがいつも電話をしてる相手か？ ん？

板垣 違いますってだから。俺、スパイなんかじゃないですから。俺は本当に板垣だし、こつこついたら信じてもらえるんですかね？

ナイル 本当のじよを言えは信じてやるよ。

板垣 言っています。

ナイル、しっかりと座りなおす。他の二人もそれに合わせて少し改まった様子。

ナイル 最初に引つかかったのはあんたが手術した時に、なんで自分の顔に戻さなかったのか？ かっていじわる。

板垣 だからそれは…… (何度も言っているわけじゃないが)

ナイル まあそれはいいや。それは、いい……。それよりもっと疑問なのは、それほど大怪我をしたんならあんたは前線を離れたはずだろ？ その間、カルタゴ・ノヴァにも帰らず、あんたはどこで何をやってたんだっ？

スランプ (ナイルの口真似) 「ピロ」で何をやってたんだっ？

板垣 だから言ったじゃないですか、捕虜になってたんですよ。スキピオの。

スランプ え？

ナイル 捕虜……？ 全然聞いてないね、そんな話は。

スランプ うんうん。聞いてない。

板垣 あー、そつでしたっけ？

ギーコ あたしは聞いてたよ。

ナイル へー？ 俺には隠しておじっつ？

板垣 じゃなくって別に、ほんと無意識で。

ナイル だとすると、君はスキピオの人間ということになるよな？ フェムト君？

板垣 違いますよ。だから俺は板垣ですよ。

ナイル だけど、フェムトという人間は、スキピオ軍の人間だったわけだろ？

板垣 まあ、そうですね。

スランプ ん？ 誰、フェムト君？

板垣 あの、俺が怪我をした時に看病してくれた奴なんですよ、

スランプ はいはい……。

ギーコ もう全部話しちゃえは？

板垣 あーもー面倒くさいな……。あの、前日、うちがいきさんがえらい金持ちだったって聞いたじゃないですか？

ナイル 聞いたね。

板垣 そのじいさんてのはカルタゴの貿易商だったんですけどね。

スランプ 貿易商。

板垣 だからスキピオにも知り合いが沢山いて、その、フェムトの家ってところのもじいさんの知り合いの家だったんですよ。お得意様っていつか。

スランプ へー。

板垣 で、怪我をした時に俺の下着に家紋が入ってしまって、それを向こうの人間が見て、「ああ、あの板垣の坊ちゃんだ、大きくなってー」って叫び出したそうなんです。それで俺は特別にフェムトの家で面倒を見てもうえるってことになった……。……。

ナイル するするしてへもまあ……（嘘が出てるんだ）

板垣 本当の話ですか？

ナイル ぶじだろっな。

板垣 最後まで聞いてください。それで俺は、……うーん4、5年になものかな、そいじい適当にじいになったんですね、

ナイル 4、5年？ すべて死んだんじゃ無かったのか？ フェムト君は？

板垣 そうですよ。だからフェムトが死んだ後も俺はその家に居残って、

ナイル 図々しいね、随分。

板垣 その頃はフェムトの妹さんに可愛がられるようになったんですよ……。……。……。それがあつま言っていた、ピコなぞですわい、

スランプ ああ……。（納得）ラブ？ ラブの話始まったの？

板垣 ま、ラブの話始まったんですけど……。……。……。……。最初は俺、包帯グルグルだったし、ピコなんて廊下で出入りするだけで泣いちゃったんですよ。……。……。……。……。……。

スランプ……。

スランプ べ、ラブですか？

板垣 ラブなぞです。

ギーコ ーいから先進ぞ。

板垣 それでそのうちフェムトの家もそれなり金持ちになりましたから、俺の顔を元通の……。……。……。……。……。

ナイル 元通り。

板垣 ええ、ちょうど第四次ベルベル戦争が終わるようになって、……。……。……。……。……。……。……。……。……。……。

ナイル でも、なつてないじゃない？ 元通り。

板垣 だから最初はあの、わざわざカルタゴから俺の顔写真を取りよせて、元通りにして貰ったって話になったんですけど、フタ開けてみたらこの、今の顔になって、当然、俺もそのことをピロに聞いて詰めました。

スランプ はあ。

板垣 ピロの言い分はこうです。……顔が元に戻ったらあなたは必ずカルタゴに戻って、ギーロさんという人のところに戻ってしまうだろう。だから顔を全然違うものにしてしまえばあなたも帰るのを諦めて、ずっずっピロと一緒に暮らしていくわんじゃないかい？

ナイル じゃあ、そうしてりゃ良かったじゃない？ なんでピロに帰ってきたんだよ？

板垣 いや、一日は僕もその説明を聞いて、これも一つの愛情表現なのかなと思ってんですけど……ちよつとした偶然でピロの昔の恋人って奴の顔を知る機会がありました。

スランプ 昔の恋人？

板垣 はい。俺と出会う前、ピロにも恋人が居たんです。そいつはベルベル戦争で死んでしまったそいつなんですけどね……。や、や、びっぴなとすすははは、それがこの、今の僕の顔にそっくりなとすすははは。

スランプ え？ じゃあ今のその、それは、ピロさんの、元カシの、フェイス？

板垣 まあ、そいつはピロじゃ。

スランプ あらび……。。

ピロの問。

板垣 まあ、その元カシ君にはなんの恨みもありゃしないんですけどね、だけど、一生そいつの身代わりとして過して行くつもりで、愛着も持てませんでしたから……。

ナイル で、今でもスキピオに帰ればピロって女が君のことを待ってる、よ。

板垣 もうそんな気はないですよ。今は、ここに残るって決めました。

ナイル 決めましたって、よ、よ、言ひよ。逃げ帰らうとして出来なかっただけだろ？

スランプ ぶっぶっぶっに残るって決めただけですか？

板垣 そりゃ元々俺はカルタゴの人間だし、こっちはギーロもいるし。スキピオにいたって所詮俺は誰かの身代わりになかなれないわけですよ。だから俺の居場所はやっぱりカルタゴにしか無いんだって思ったし、

スランプ うんうん。

ナイル 騙されるなよ。こいつは最初来た時になんて言ってたよ？ 「カルタゴは、何十年かはダメ

だ」って、そいつはじゃないかい？

板垣 騙す必要なんか何もないでしょう。騙すって何だよおまえ、

ナイル いや、その話は本当の本当の話だ、って言い切れるのかよ、え？

板垣 別に、普通に本当の話だよ。

問。

ナイル ……俺も冷静に話しますよ。

板垣 そいつはトコです。

ナイル あんたがスキピオのスパイで、俺の持っているHIFANTの技術が田舎でなんじゃないのか、かっていつ考えがぶっ壊れても消えないんだ。……わかっているよ。そんなことのためにあんたはわざわざこんなところまで来ないよ。ギーコへの思いみたいなものもあるんじゃないかって思うよ。わかっている。……ただどあんたは怪しいんだ。ほんの少しでも怪しいのや、まっぴら言わないで疑いごとくはぶっ壊してしまっただろう？ 出来てしまっただよ。俺にはそれが、疲れる。

ギーコ ぶっ壊して？ スランプは。

スランプ あたし？ は……よくわかんないよ。なんか、よく出来た嘘みたいな気もするけど……。

板垣 よく出来た嘘みたいなのもどきよ、本場のじよなと。

スランプ 全然違いますよ。

板垣 同じですよ。

スランプ 違います。

ギーコ ああ、もうぶっ壊れてもいいじゃない？ この人がお金田当てで来たんだろ？ あたしに会いに来たんだろ？ 今のはじよやっぴと詰めておいて一緒に暮らしているってだけでじよ？ それだけじゃ。ん。そむじゃ駄田なの？

少づの間。

ナイル あんたギーコから金をもらったら、ぶっ壊れる気だったんだよ？

板垣 誰だって必要でしょお金は？ だったらあんたにも同じことを聞きたいよ。金なんか稼いでじよするんですか？ じよ。

ナイル 生活をしますんだよ。

板垣 だったら俺だって生活をするんですよ。とじよかね、ナイルさんこそ、なんでギーコのいないとじよじよじよ話してつじよたんですか？ 回して行ってるなとじよじよじよじよじよじよじよ……。

ナイル 本人の前で言わなくたってじよじよもある。

板垣 都心のいい理屈だー！ 俺から言わせりゃね、あんたは俺が本物の板垣だってわかったからじよ追いつ返さじよじよじよだよ。

ナイル 何だそりゃ？

板垣 だってナイルさんは今まじよ「板垣」の身代わりをしてたわけじよ？ ギーコの隣り。それを今後も続けたいんためには「本物の板垣がいなくなった」ってじよじよ大前提がじよじよじよじよじよなんですよ。要するにね、ギーコにじよじよの「板垣」は、ちゃんと死んでいくねなくちゃ困るんですよ、ナイルさんね！

ナイル 俺がギーコに席外してもらおうって思ったのはそんな理由じゃないよ。

板垣 じゃなんですか？ なんか都合の悪いじよじよもあるんですか？

少づの間。



少しの間。

ナイル よく出来た嘘と本当は同じ？

板垣 俺も聞きたいんだけどさ、

ナイル うん、なんだ？

板垣 ナイルさんはどうしてギーコを作る時に顔の傷を残したの？ 周りの人間に不振がられたんじゃない？ だってギーコはハルイちゃんとした金を持ってたらその傷をもっと目立たないように変えるべからい、……ね。

ナイル 何だろう、……彼女自身が残したものだから？

板垣 死ぬまで？

ナイル うん。死ぬまで。

ギーコ そんな話したじゃん、昔？

ナイル え？

ギーコ あたしらがこの世に残せるものは傷だけだと思うから、それは全部受け入れよう、っ。

板垣 俺が言ったの？

ギーコ 生活するっていうのは多分、もともと完全だったものを傷つけて傷つけて、とんだつまずなうものごとくして行くってことだから。だからそのちょっと残念な感じも含めちゃうと全部受け入れようって……。忘れちゃった？

板垣 いったかもある、……ごしたよ。ごすしか、今の今までもごしたよ。

ギーコ 今のごすでもごす記念日なんか覚えてごすべからい。

板垣 (笑) ……。ほらごすよく出来てるね。おごすような昔の約束も……。ナイルさんがインプリントしたの？

ナイル、無言で頷いてから、

ナイル まあ、君だってフェムト君が演じているんだとすれば大したもんだだけさ。

ギーコ 今のごすでもさならすれば、板垣が本当に生きてくるんだと思っただけさ、ごすけるのかも知れないね。

ナイル そうだ。

ギーコ そっちの方が板垣本人と一緒に過ごすことの方が、ずっとスナキなことなのかもしれない……。

板垣 俺は板垣だよ。ていつか君も、え、本当に、いせきなの？

スランプ だから、エリファントは身代わりではあってもいせきではないとさっすっ。

ギーコ それでもあたいと一緒にごすか？

問。

板垣 居たい。



間。

板垣 うん。一緒に居たいんじゃないかな。

ナイル はあ？ 君も何言ってるんだかわかんない人だね、お金を取りに来たんじゃなかったの？

板垣 最初はそれもありましたけど、今はなんか、そんなことわかんないですよ。

ギーコ 確かなのは、戦争が終わってもすぐには帰ってきてくれなかったってことだよ、今になったけど帰ってきてくれたってことじゃない？

ナイル (板垣に) だからそれは金を取りに来たんじゃなかったのかよ？

ギーコ ねえ、あんた本当にそれで来たの？

板垣 まあ、嘘ではないよ……。金も欲しかったんだろうし、あと、なんかもう一度カルタゴを見ておきたかったのかもしれないし、カルタゴ・ノヴァを見ておきたかったのかもしれない……。あとほだけび、これらも本当だけびさ、会いたかったんじゃない？

ギーコ ……。

板垣 う思ひよ。

ナイル ギーコがエレファントだってわかってても、これに居残るつもりじゃないよ、やっぱり君の目的は俺の技術なんじゃないのかっていう考え方も出来ちゃうんじゃない？

板垣 どうでもいいですよあんたなんか！ だったらギーコと二人にさせてくださいよ。ここを引越してわさる。ま、ギーコが認めてくれればいいよ。

ナイル おい、ちゃんとわかってんのか？ これは君の知っているギーコじゃないんだよ？

板垣 いや、わかんないですよ。ちゃんとなんてわかってないのかもしれないけど、なんか直感的にそう思ってますよ。エレファントには何にせよ、もうこのギーコは俺にとっては限りなく本物のギーコだから……。。

間。

ギーコ もういいんじゃない？ ナイル。

ナイル うん……。うん……。

ギーコ 誠意は十分伝わったと聞いていいよ。

ナイル 誠意っていつのか、どうなの。

板垣 ん、え？ 何が？

ナイル いぬ。あの、ギーコが死んだってことは嘘なんだ。

間。板垣が絶句している。

ナイル (ギーコを指して) この人は、エレファントじゃない。人間だ。

ギーコ あたしは一言も言っていないからね。

板垣 何？ ええ……？ ええ？ なんだよ、すげえ騙されたよ。ええ？ そんじゃギーコは、なんだよ、ええ？ ギーコなんだよね？ おいおいおい……。

板垣、脱力している。

と、遠くで小さく爆撃の音がする。

続いて複数の飛行機が飛んでいる音。

ナイル、空を見て、

ナイル おお、早くもって感じだねえ。

スランプ 交渉が決裂？

ナイル ま、最初からスキピオに交渉する気があったとは思えないけどな。

スランプ ま、なるようにするでしょ。

ナイル 頼りにしているよ。

スランプ はいはい。

ギーコ (ナイルに) ねえ、守ってもらいしもりだったの？

ナイル え？

ギーコ いやスランプにさ。なんか板垣と喧嘩みたいになっちゃったり。

ナイル そうそうそう。カズクになっただらね。

板垣 え？ スランプさんが？

スランプ やめてって暴力は。

ギーコ やっぱそれ狙いか……。情けな……。うわ情けな！

ナイル いいだろ自分で無理するよの。いじい守ってもらった方がよっぽど確実なんだから。

ギーコ ま、そりゃそうだけど……。だったら守ってくれば良かったのに。

ナイル ん？ 何を？

ギーコ ナイルがエレファントを沢山沢山作ってくればさ、カルタムは戦争に負けずに済んだわけだしでしょ？

ナイル 少しの間だよ。

ギーコ いいじゃなそねだして。少々の間じゃね。

ナイル それでまたエレファントがとどろいて作らわって？ そんな壊れわって？ いやなんだよせつ、そんなのは！

ギーコ カルタムがびびりなしてっ。

ナイル そりゃ、良くはないよ。良くはないけど……。でも無駄なんだよ、そんなことして。無駄なんだ。

少々の間。

スランプ 頑固だから。

爆弾の音がボンボンしている。

板垣 守るとかっつて、え、なんですか？ そんなに強いんですかスランプさん？

ギー「 そりゃあ、ねえ。

スランプ 人間には負けないよ。

ナイル、二度つなまっへ。

再び爆撃の音。

激しくなりつつも現実感のなくなっていく爆撃音。

と、鳥かごが自然に倒れる。

幕